

日本教育心理学会 第66回総会
学会企画シンポジウム 4

良い心・悪い心の「裏側」を探る
——心理学概念の望ましさをめぐる諸問題——

資料目次 (PDFのページ)

◆ 話題提供

野崎優樹	2～26
江上園子	27～34
山岡明奈	35～47
飯村周平	48～61

日本教育心理学会第66回(2024年)大会 学会企画シンポジウム

良い心・悪い心の「裏側」を探る—心理学概念の望ましさをめぐる諸問題 話題提供

情動知能の望ましさをどう捉えるか



野崎 優樹(甲南大学)



一般的な通念：情動知能＝よい

情動知能とは...

- 自分自身や他者の情動を賢く活かす力を指す概念
 - 社会的知能の一種 (Salovey & Mayer, 1990)
- 幸福感・健康・対人関係・仕事のパフォーマンスをはじめ、様々な適応の高さと正に関連 (レビューとして野崎, 2021)
- トレーニングに関する研究や実践も盛ん

情動知能 ≠ よい？ (Côté et al., 2011)

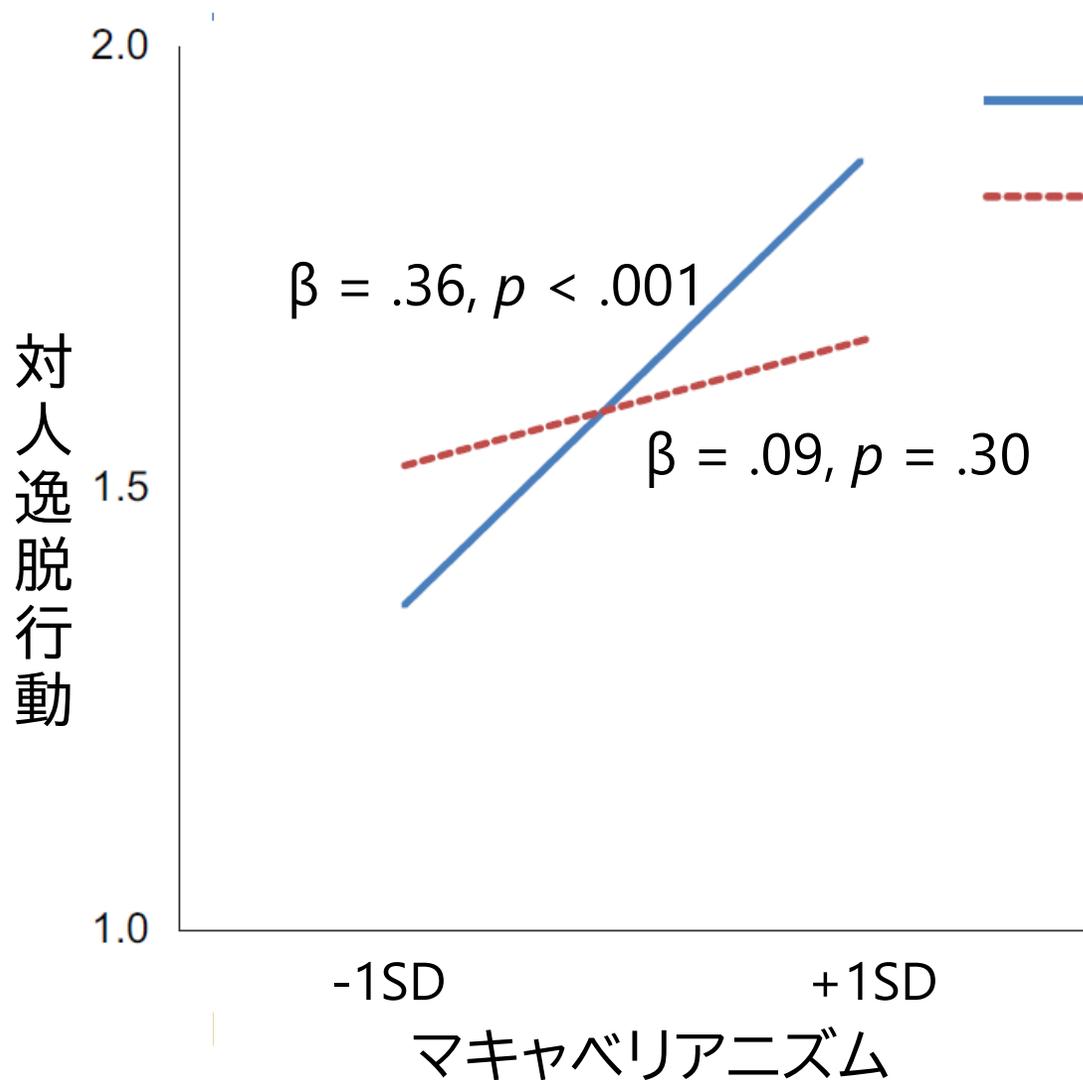
The Jekyll and Hyde of Emotional Intelligence: Emotion-Regulation Knowledge Facilitates Both Prosocial and Interpersonally Deviant Behavior

Psychological Science
22(8) 1073–1080

**Stéphane Côté¹, Katherine A. DeCelles¹, Julie M. McCarthy¹,
Gerben A. Van Kleef², and Ivona Hideg¹**

¹Rotman School of Management, University of Toronto, and ²Department of Social Psychology, University of Amsterdam

情動知能 ≠ よい？ (Côté et al., 2011, Study 2)

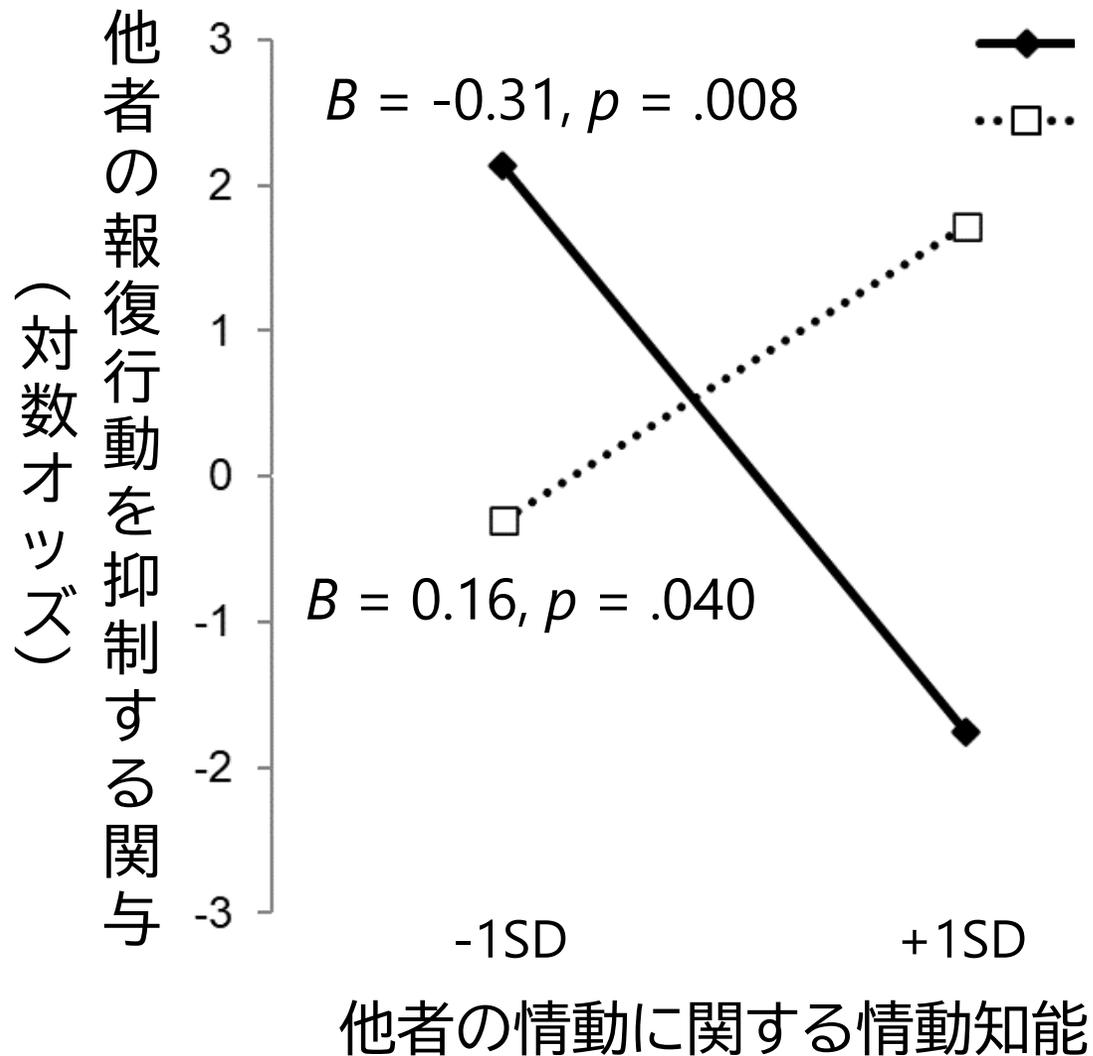


情動知能(情動調整に関する知識) + マキャベリアニズムが高い人が、最も職場での対人逸脱行動(公の場で他者に恥をかかせる, など)の程度が高い

情動知能と行動の結びつきは意図次第 (Nozaki & Koyasu, 2013)

- 参加者自身と別のプレイヤーが排斥される
- 次の経済ゲームにて, 排斥された別のプレイヤー(被排斥者)が自分のポイントを犠牲にして, 排斥者のポイントを増加させないようにすることで報復を試みている場面を設定
 - この状況で, 参加者が, 被排斥者の報復行動を抑制する関与をするか, 支持する関与をするかを測定
- 経済ゲーム終了後, 参加者の「ゲーム中の報復の意図」を測定

情動知能と行動の結びつきは意図次第 (Nozaki & Koyasu, 2013)



情動知能の高さは、報復の意図が低い人では他者の報復行動を抑制する関与に結びつき、報復の意図が高い人では支持する関与に結びつく

両面性に関する展望論文 (Akamatsu & Gherghel, 2021)

The Bright and Dark Sides of Emotional Intelligence: Implications for Educational Practice and Better Understanding of Empathy

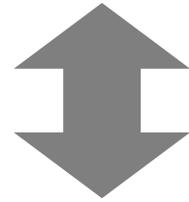
Daisuke Akamatsu^{A1,2}, Claudia Gherghel³

- 情動知能自体はニュートラルであり, どのように発揮されるのかに応じて, よしあしは変わる
 - 情動知能 × 共感性/道徳性 → 向社会的行動
 - 情動知能 × マキャベリアニズム → 反社会的行動

情動知能の2つの見方

一般的通念 + 多くの研究

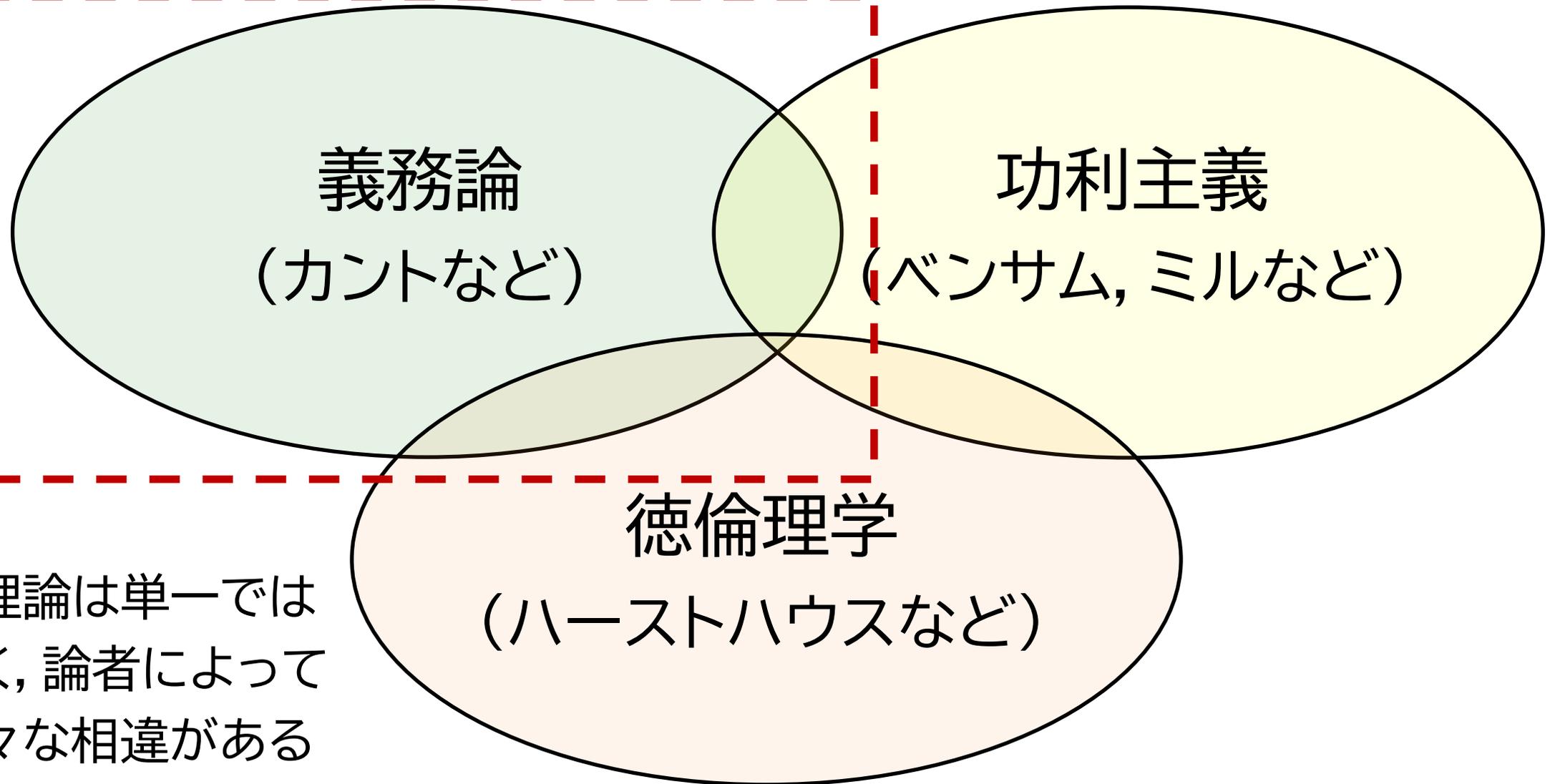
情動知能 = よい



一部の研究

情動知能自体はニュートラルであり、
どのように発揮されるのかに応じて、よしあしは変わる

規範倫理学の主要3大理論（岡本, 2023）



義務論
(カントなど)

功利主義
(ベンサム, ミルなど)

徳倫理学
(ハーストハウスなど)

※各理論は単一ではなく、論者によって様々な相違がある

義務論：「善い」と「良い」の区別（秋元, 2020）

- 「よい」という言葉は多義的であり, 議論をする際には, 様々な内容の「よさ」を明確に区別することが重要
- 以降の言葉の使い分け（秋元, 2020に準拠）
 - 倫理や道徳に関わるもの・・・「善い」
 - それ以外・・・「良い」
 - あえて抽象的に表現したい場合・・・「よい」

カント『道徳形而上学の基礎づけ』で挙げられた「よさ」

- 倫理的善さ = 善意志
 - “君の行為の格律が君の意志を通じて普遍的な自然法則になるかのように行為せよ” (Kant, 1785 大橋訳, 2024, p. 81)

✠

- それ以外の良いもの
 - 精神の才能(知力, 機知, 判断力など)
 - 気質の特性(勇気, 決断力, 粘り強さなど)
 - 幸運の賜物(権力, 富, 名誉, 健康など)

意志のフィルター (秋元, 2020, p. 213)

精神の才能

- 知力, 機知, 判断力など

気質の特性

- 勇気, 決断力, 粘り強さなど

幸運の賜物

- 権力, 富, 名誉, 健康など

意志の
フィルター

善い方向

良い特徴を有して
いるほど振れ幅は
大きくなる

悪い方向

情動知能の2つの見方

一般的通念 + 多くの研究

情動知能は「良い」が、それ自体は「善くも悪くもない」

情動知能 = よい

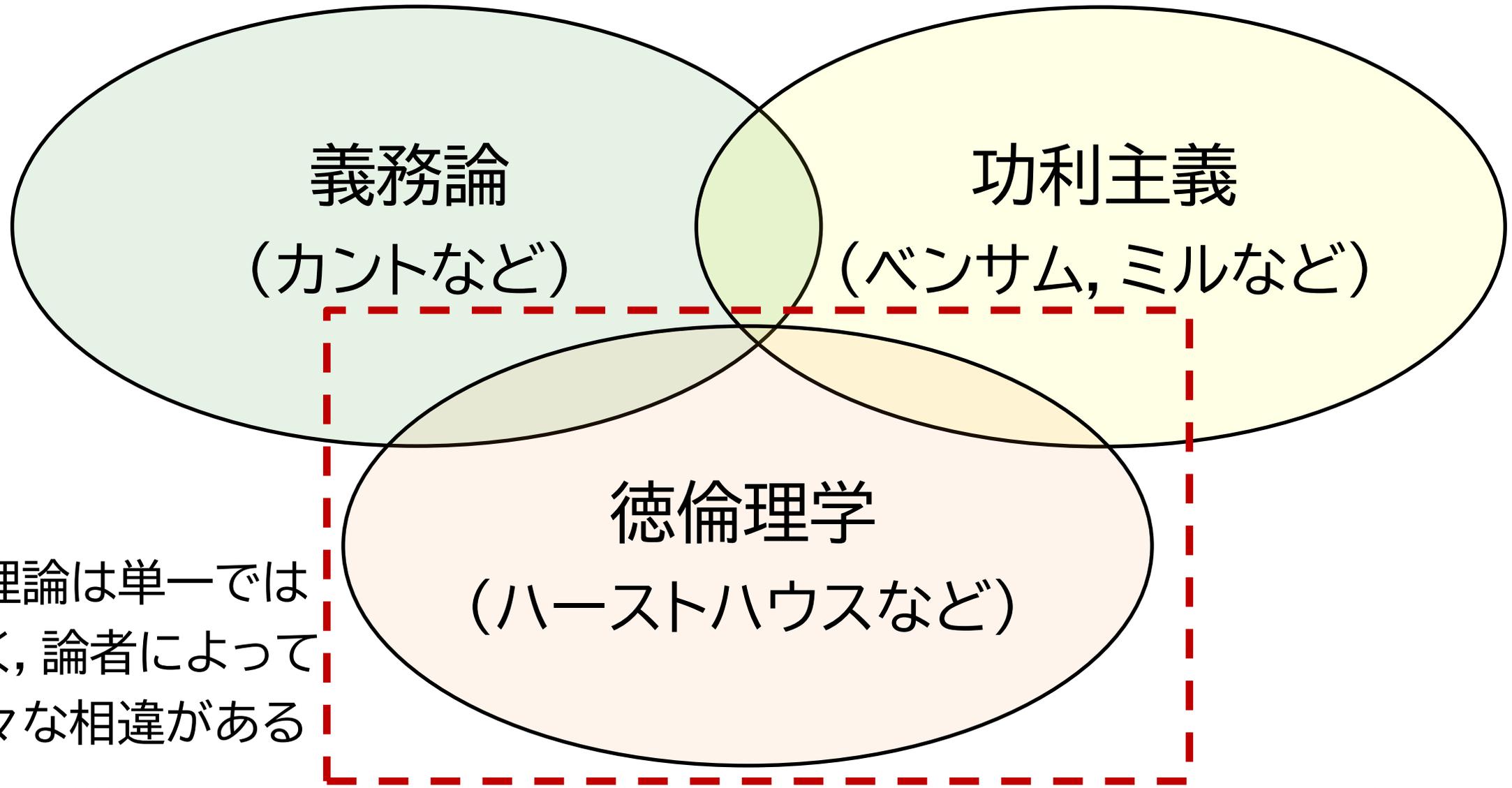
義務論の「善さ」と「良さ」
の区別を踏まえると....



一部の研究

情動知能自体はニュートラルであり、
どのように発揮されるのかに応じて、よしあしは変わる

規範倫理学の主要3大理論（岡本, 2023）



義務論
(カントなど)

功利主義
(ベンサム, ミルなど)

徳倫理学
(ハーストハウスなど)

※各理論は単一ではなく、論者によって様々な相違がある

徳倫理学の前提 (Hursthouse, 1999 土橋訳 2004, pp. 42-43)

前提1: 行為は, もし有徳な行為者が当該状況にあるならなすであろう, 有徳な人らしい(つまり, その人柄にふさわしい)行為である時, またその場合に限り, 正しい。

前提1a: 有徳な行為者とは, ある性格特性すなわち徳をもち, かつ働かせる人のことである。

前提2: 徳とは, 以下のような性格特性である, すなわち.....。

※性格特性の原語は, character traits

徳(卓越性)の例

- 「正義」「正直」「慈悲」「勇気」「実践知」「寛容」「忠誠心」等々 (Hursthouse, 1999 土橋訳 2004, p. 51)
 - “人間が幸福(eudaimonia)であるために, すなわち成功する／よく生きるために必要な性格特性”(前掲書, p. 253)
 - 起源は, アリストテレス『ニコマコス倫理学』に遡る
 - ポジティブ心理学の “character strengths” とも密接な関係がある (Peterson & Seligman, 2004; Wilson et al., 2024)

徳と感情 (Hursthouse, 1999 土橋訳 2004, p. 165)

1. 徳(と悪徳)は道徳的に重要である。
2. 徳(と悪徳)とは, 行為を為すためだけでなく, 感情を抱くためにも必要な, つまり, 行為への衝動であると同様に行為に対する反応でもある, あらゆる性向のことである。(アリストテレスは, 繰り返し, 徳は行為ばかりでなく感情にもかかわっていると述べている。)

※ この引用文における「感情」の原語は, emotions

徳と感情 (Hursthouse, 1999 土橋訳 2004, p. 165)

3. 徳のある人において, このような感情は, しかるべき場面で, しかるべき人々または対象に向かって, しかるべき理由によって, 抱かれる。この場合の「しかるべき」とは, 「ニュージーランドの首都はどこか?」という問いに対する「しかるべき」答えが「ウェリントン」であるというのと同様に, 「正しい」という意味である。

※ この引用文における「感情」の原語は, emotions

情動知能の2つの見方

一般的通念 + 多くの研究

情動知能 = よい

徳倫理学の「徳(卓越性)」
として情動知能を捉えるなら...



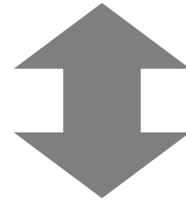
情動知能は「良い」かつ「善い」

徳倫理学と義務論の対比

徳倫理学

行為者の特性を重視

⇒パーソナリティ心理学における「特性アプローチ」に近い？



義務論

行為に至る過程(プロセス)を重視

⇒パーソナリティ心理学における「社会認知的アプローチ」に近い？

情動知能の捉え方の移り行き

- 2024年の『教育心理学年報』における人格部門の以下の論文で、情動知能の捉え方の移り行きと示唆を議論

野崎 優樹(印刷中). パーソナリティと個人差研究の動向と今後の展望—非認知能力・社会情動的スキルを巡る議論に対する情動知能研究からの示唆— 教育心理学年報, 63, 70-95.

まとめ：情動知能の望ましさをどう捉えるか？

- 「情動知能がどのような意味で望ましいのか？」という問いは、規範倫理学の理論と紐づけながら考察することもできる
- この問いに対する回答への意識は、「情動知能」という構成概念の捉え方に影響を与え、ひいては、どのような研究を進めるか？という研究実践の在り方にも影響を及ぼすものと考えられる

引用文献

Akamatsu, D., & Gherghel, C. (2021). The bright and dark sides of emotional intelligence: Implications for educational practice and better understanding of empathy. *International Journal of Emotional Education*, 13(1), 3-19.

秋元 康隆(2020). 意志の倫理学—カントに学ぶ善への勇気 シリーズ〈哲学への扉〉
月曜社

Côté, S., DeCelles, K. A., McCarthy, J. M., Van Kleef, G. A., & Hideg, I. (2011). The Jekyll and Hyde of emotional intelligence: Emotion-regulation knowledge facilitates both prosocial and interpersonally deviant behavior. *Psychological Science*, 22(8), 1073-1080. <https://doi.org/10.1177/0956797611416251>

Hursthouse, R. (1999). *On virtue ethics*. Oxford University Press(ハーストハウス, R. 土橋 茂樹(訳)(2014). 徳倫理学について 知泉書館)

引用文献

- Kant, I. (1785). *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten*. J. F. Hartknoch. (カント, I. 大橋 容一郎(訳) (2024). 道徳形而上学の基礎づけ 岩波書店)
- 野崎 優樹(2021). 情動知能—情動を賢く活用する力— 小塩 真司(編)非認知能力—概念・測定と教育の可能性— (pp. 133-148) 北大路書房
- 野崎 優樹(印刷中). パーソナリティと個人差研究の動向と今後の展望—非認知能力・社会情動的スキルを巡る議論に対する情動知能研究からの示唆— 教育心理学年報, 63, 70-95.
- Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). The relationship between trait emotional intelligence and interaction with ostracized others' retaliation. *PLoS ONE*, 8(10), Article e77579. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0077579>

引用文献

岡本 慎平(2023). 功利主義・義務論・徳倫理学—倫理学の主要理論— 神崎 宣次・佐藤 静・寺本 剛(編)倫理学 3STEPシリーズ 5(pp. 1-21) 昭和堂

Salovey, P., & Mayer, D. (1990). Emotional intelligence. *Imagination, Cognition and Personality*, 9(3), 185-211. <https://doi.org/10.2190/DUGG-P24E-52WK-6CDG>

Peterson, C., & Seligman, M. E. (2004). *Character strengths and virtues: A handbook and classification*. Oxford University Press.

Wilson, D., Ng, V., Alonso, N., Jeffrey, A., & Tay, L. (2024). Conceptualizing “positive attributes” across psychological perspectives. *Journal of Personality*, 92(3), 683-696. <https://doi.org/10.1111/jopy.12873>

良い心・悪い心の「裏側」を探る
—心理学概念の望ましさをめぐる諸問題—

「母性愛」に焦点を当てて

横浜市立大学 江上園子



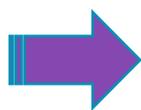
「母性」・「母性愛」概念

「母性」

- 女性が母として持っている性質, 母たるもの

「母性愛」

- 母親が持つ, 子に対する先天的・本能的な愛情 ⇔ 父性愛



「母性」それ自体が神話的で力強い役割としてのイメージを醸し出す(Apter,1990)

「母性愛」における二分法的な議論

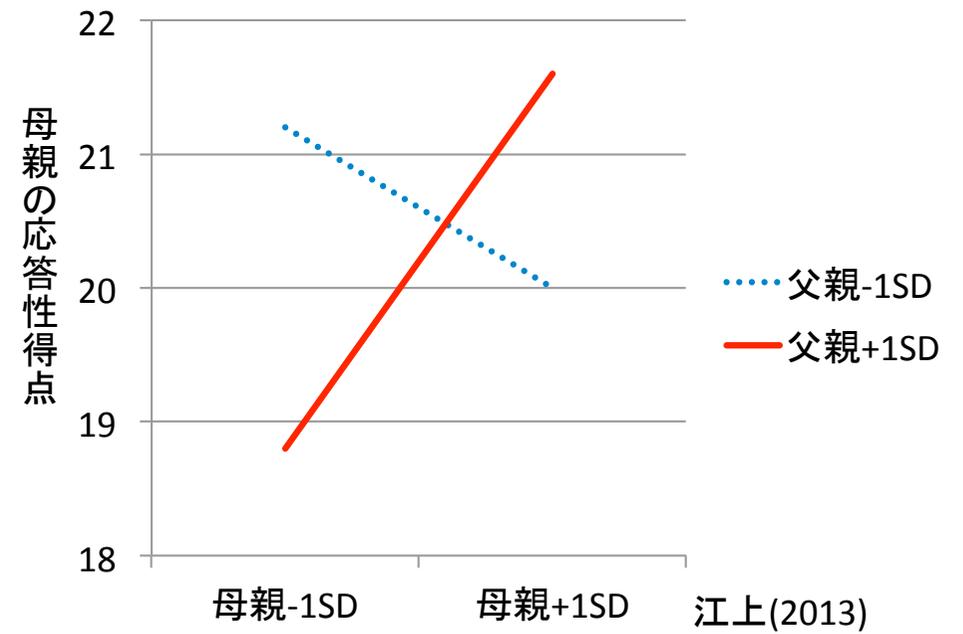
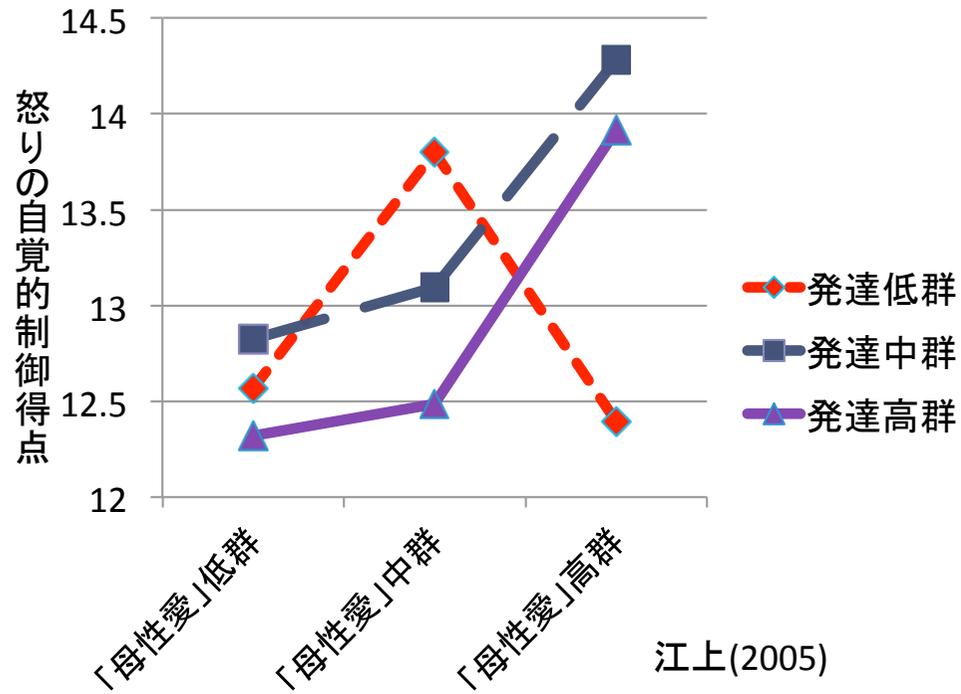


「母性愛」信奉傾向(江上, 2005; 2007)

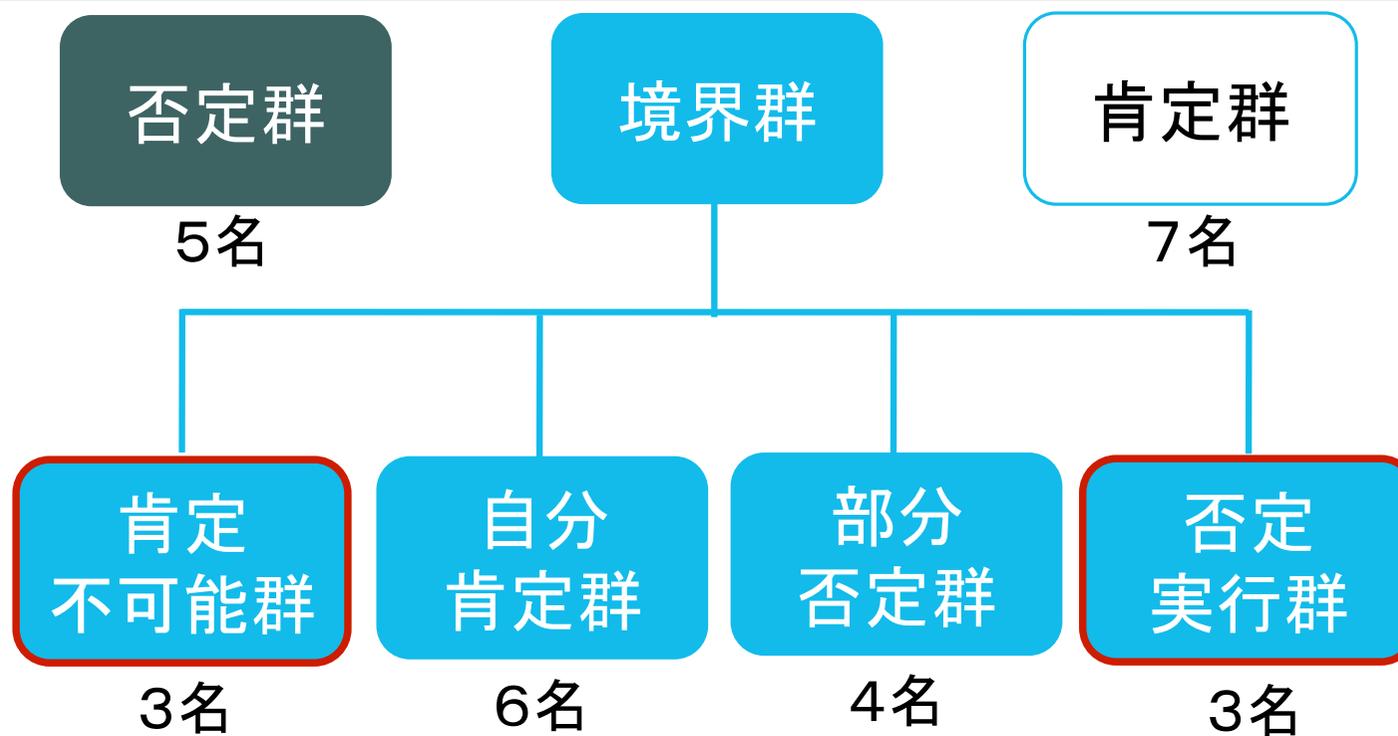
社会文化的通念として存在する伝統的性役割観に基づいた母親役割を信じそれに従って育児を実践する傾向

- ・母親であれば、育児に専念することが第一である
- ・育児は女性に向いている仕事であることから、するのが自然である
- ・わが子のためなら、自分を犠牲にすることができるのが母親である
- ・子どものためなら、どんなことでもするつもりでいるのが母親である

研究(1)アンケート調査から



研究(2)インタビュー調査から



江上(2009)

結論と示唆

プラスもあればマイナスも

- 「両刃の剣」としての「母性愛」概念を提示

ジェンダーベクトルの威力(船橋, 2006)

- ベクトルを逆行する知見の蓄積が必要
- 

誰にとっての「母性愛」なのか

文化

- 欧米
- アジア
- 日本

時代

- 1970年代以前か以降か
- 社会的に象徴的な事件や災害の影響

立場

- 母親か父親か
- 第三者
- 女性か男性か

マインドワンダリングに 焦点をあてて

シンポジウム“良い心・悪い心の「裏側」を探る
心理学概念の望ましさをめぐる諸問題”

話題提供：沖縄国際大学 山岡明奈

マインドワンダリングとは

・マインドワンダリング

…現在行っている課題や外界の環境から注意がそれて、自己生成的な思考を行う現象 (Smallwood & Schooler, 2015)。



マインドワンダリングの類似概念

◇**現在行っている課題や状況に関係のない内的な思考はこれまでも研究されてきた**

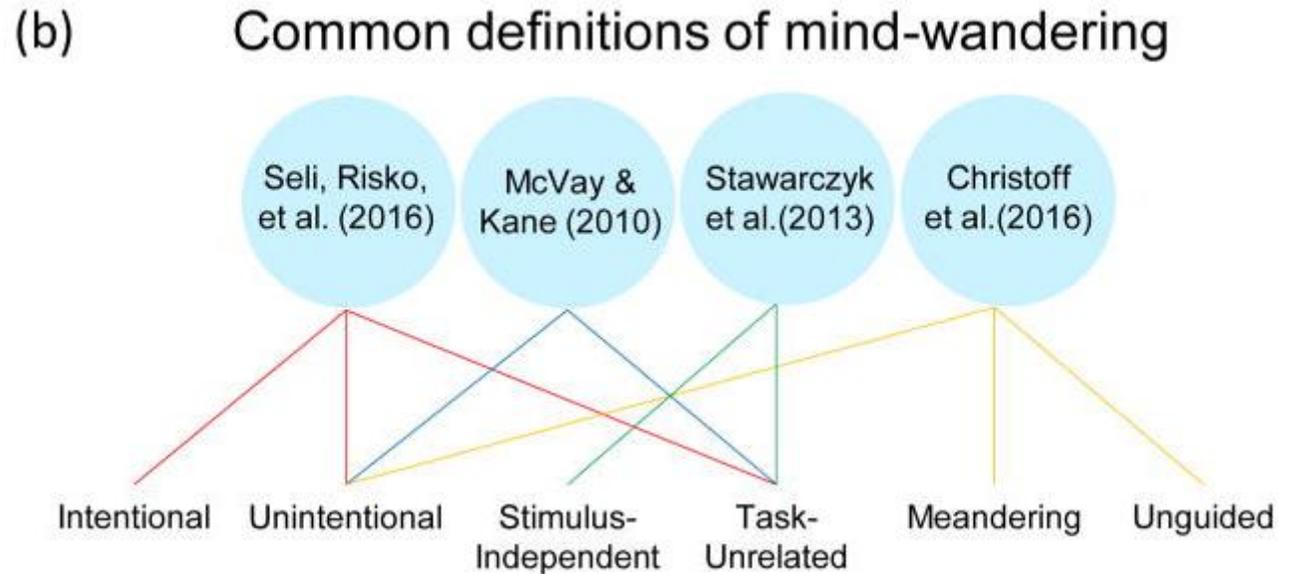
- 課題無関連思考 (e.g., Smallwood, Baracaia, Lowe, & Obonsawin, 2003)
- 課題無関連心像と思考 (Giambra, 1995 ; Giambra & Grodsky, 1989)
- 刺激独立思考 (Antrobus, 1968 ; Teasdale, Lloyd, Proctor, & Badgeley, 1993)
- マインドポップ (Kvavilashvili & Mandler, 2004)
- ゾーンアウト (Schooler, 2002 ; Schooler, Reichle, & Halpern, 2005)

⇒**これらをまとめる上位概念としてマインドワンダリングが提唱された** (Smallwood & Schooler, 2006)

マインドワンダリングの定義

◇研究者によってマインドワンダリングの定義が異なる状況

- 意図的
- 非意図的
- 刺激独立
- 課題無関連
- 蛇行性
- 非誘導的



⇒ 少しずつ異なる特徴を持つが、家族的類似性を持つ似た思考をマインドワンダリングという枠組みで捉える (Seli et al., 2018)

ネガティブな側面

◇マインドワンダリングが生じるほどパフォーマンスが低下する

- 交通事故のリスク (Burdett et al., 2016 ; Galéra et al., 2012 ; He et al., 2011 ; Qu et al., 2015)
- 医療ミス of リスク (Berner, 2011 ; Smallwood et al., 2011)
- 授業成績の低さ (Lindquist & McLean, 2011 ; Risko et al., 2012 ; Seli et al., 2016; Wammes & Smilek, 2017)
- 読書課題の成績低下 (Feng et al., 2013 ; Kopp et al., 2015 ; Schooler et al., 2004 ; Smallwood et al., 2008 ; Soemer et al., 2019 ; Unsworth & McMillan, 2013) 。
- 注意維持課題のエラー率の高さ (Hu et al., 2012 ; Smallwood et al., 2004 ; Smallwood et al., 2009 ; Stawarczyk et al., 2011)

ネガティブな側面

◇マインドワンダリングが生じるほど気分や精神的健康に悪影響

- ネガティブ気分が高くなる (Killingsworth & Gilbert, 2010)
- 抑うつ患者は健常群よりもマインドワンダリングが頻繁 (Hoffmann et al., 2016; Wellaf et al., in press) 。
- 睡眠障害との関連 (Carciof et al., 2014; Ottaviani & Couyoumdjian, 2013)

ネガティブな側面

◇ネガティブな影響が限定的なものだという知見も存在する

- ネガティブな事や、過去・他者に関するマインドワンダリングがネガティブ気分と関連する (Ruby et al., 2013)
- 反すう的なマインドワンダリングは気分の悪化や健康のリスク要因と関連する (Ottaviani et al., 2013 ; Ottaviani et al., 2015)
- 無自覚に行われたマインドワンダリングは抑うつと関連する (Deng, Li, & Tang, 2014 ; Konjedi & Maleeh, 2017)

マインドワンダリングの抑制

◇マインドワンダリングを減少させるための研究が増える

- オンライン講義中に記憶テストを挿入すると、マインドワンダリングが減少する (Szpunar, Khan, & Schacter, 2013)
- 学習意欲の高い人はノートをとることでマインドワンダリングを抑制できる (Kane et al., 2017)
- **マインドフルネス**トレーニングによってマインドワンダリングが減少する (e.g., Mrazek et al., 2012 ; Xu et al., 2017)

ポジティブな側面

◇マインドワンダリングにもポジティブな効果がある

- 未来の計画が促進される可能性 (e.g., Baird et al., 2011 ; Medea et al., 2018 ; Seli et al., 2017 ; Mooneyham & Schooler, 2013)
- 脱馴化 (Mooneyham & Schooler, 2013)
- 退屈緩和 (Baird et al., 2010)
- 長距離のトレーニング中の気分向上 (Miś and Kowalczyk, 2021)
- 遅延割引の減少 (Small wood et al., 2013)
- ポジティブなことや、未来・自己に関するマインドワンダリングはポジティブ気分と関連 (Ruby et al., 2013)

ポジティブな側面

◇マインドワンダリングは創造性と関連する

- マインドワンダリング傾向と創造性の正の関連 (Agnoli, Vannucci, Pelagatti, & Corazza, 2018 ; Baird et al., 2012 ; Fox & Beaty, 2019 ; Preiss, Cosmelli, Grau, & Ortiz, 2016 ; Zedelius & Schooler, 2015) 。
- 意図的なマインドワンダリングが創造性の高さに関連する (Agnoli et al., 2018) 。
- 高い注意制御能力とメタ認知を持つ場合のみ創造性との正の関連がみられる (Preiss, Ibaceta, Ortiz, Carvacho, & Grau, 2019) 。

ポジティブな側面

◇あたたため期のマインドワンダリングは孵化効果を増進する

(Baird et al., 2012 ; Tan et al., 2015; 山岡・湯川, 2016 ; Yamaoka & Yukawa, 2021)



ポジティブな側面

◇創造性との関連についてはさらなる検討が必要

- マインドワンダリングは孵化効果を増進しなかった (Murray et al., 2021; Smeekens & Kane, 2016 ; Steindorf et al., 2021)
- ワーキングメモリ容量の低い人において孵化効果が増進された (Huang et al., 2024)
- あたため期中に適度に魅力的な課題を行う必要がある (Irving et al., 2022)
- マインドワンダリング中に多様なことを考える必要がある (Irving et al., 2022; Teng & Lien, 2022)

まとめ

◇マインドワンダリングが人にどのような影響をもたらすかは、
①生起するタイミングと②マインドワンダリングの仕方が重要？

①生起するタイミング

- 集中すべき状況→悪い影響が大きい
- 退屈な状況やリラックスしてよい状況→良い影響が大きい

②マインドワンダリングの仕方

- ネガティブ，反すう的な内容→悪い影響が大きい
- ポジティブ，未来に関する，多様な内容→良い影響が大きい

— 良い心・悪い心の「裏側」を探る — 心理学概念の望ましさをめぐる諸問題 —

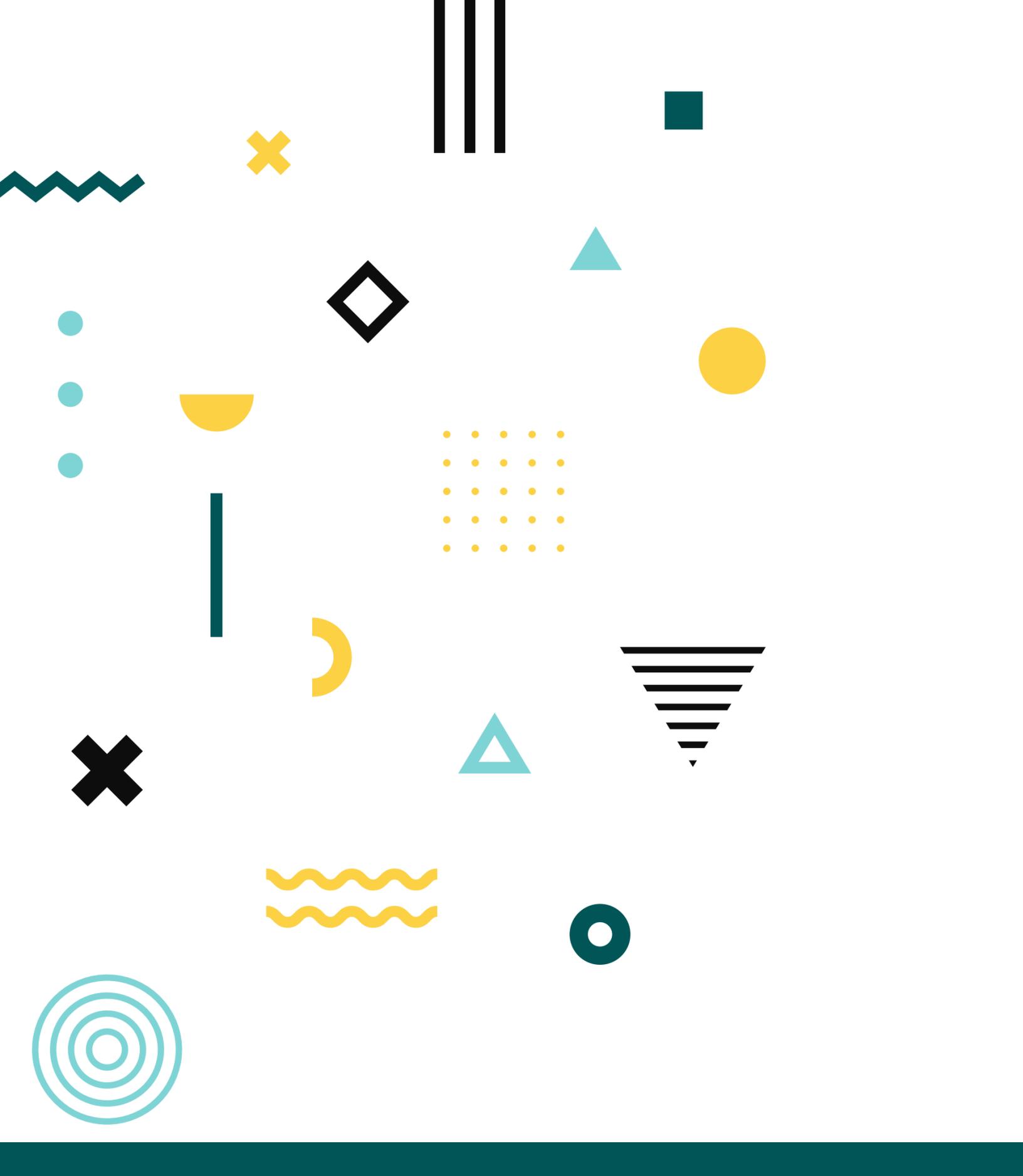
環境感受性の良し悪し

For Better and For Worse



飯村周平





目次

- 00 個人×環境相互作用
- 01 結論（予告）
- 02 素因ストレスモデル
- 03 差次感受性モデル
- 04 ヴァンテージ感受性モデル
- 05 環境感受性というメタ概念
- 06 環境感受性の高さは適応度を低める？
- 07 再びの結論

00

個人×環境相互作用：発達を説明する枠組み

環境の質



個人特性



心理社会的な
発達

例 家庭
学校
社会・文化

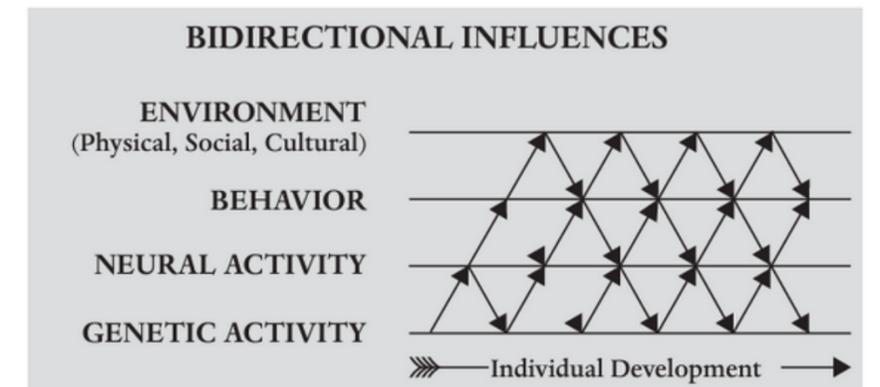
例 遺伝子
神経生理
気質

例 うつ症状、不安
問題行動
向社会性

参考

Gottliebの発達システム理論

Gottlieb, G. (1991). Experiential canalization of behavioral development: Theory. *Developmental Psychology*, 27, 4-13.



01 結論（予告）

発達リスクをもたらす個人特性は必ずしも「悪い心」ではない…？

【悪い】
環境の質

×

【悪い】
個人特性

=

【悪い】
発達

例 不適切な養育
問題のある友人関係
社会経済水準の低さ

例 「リスク」遺伝子型
「過敏な」神経生理応答性
「負の情動性」気質

例 うつ症状の高さ
問題行動の多さ
向社会性の低さ

- 個人×環境交互作用研究で古くから「脆弱性」因子（リスク因子）として扱われてきた個人特性は、必ずしも心理社会的な発達にとって「悪い心」ではない
- 「脆弱性」因子は、実際のところは「可塑性」因子（被影響性・感受性因子）であり、それ自体は「ニュートラル」なものである

02

精神病理の素因ストレスモデル

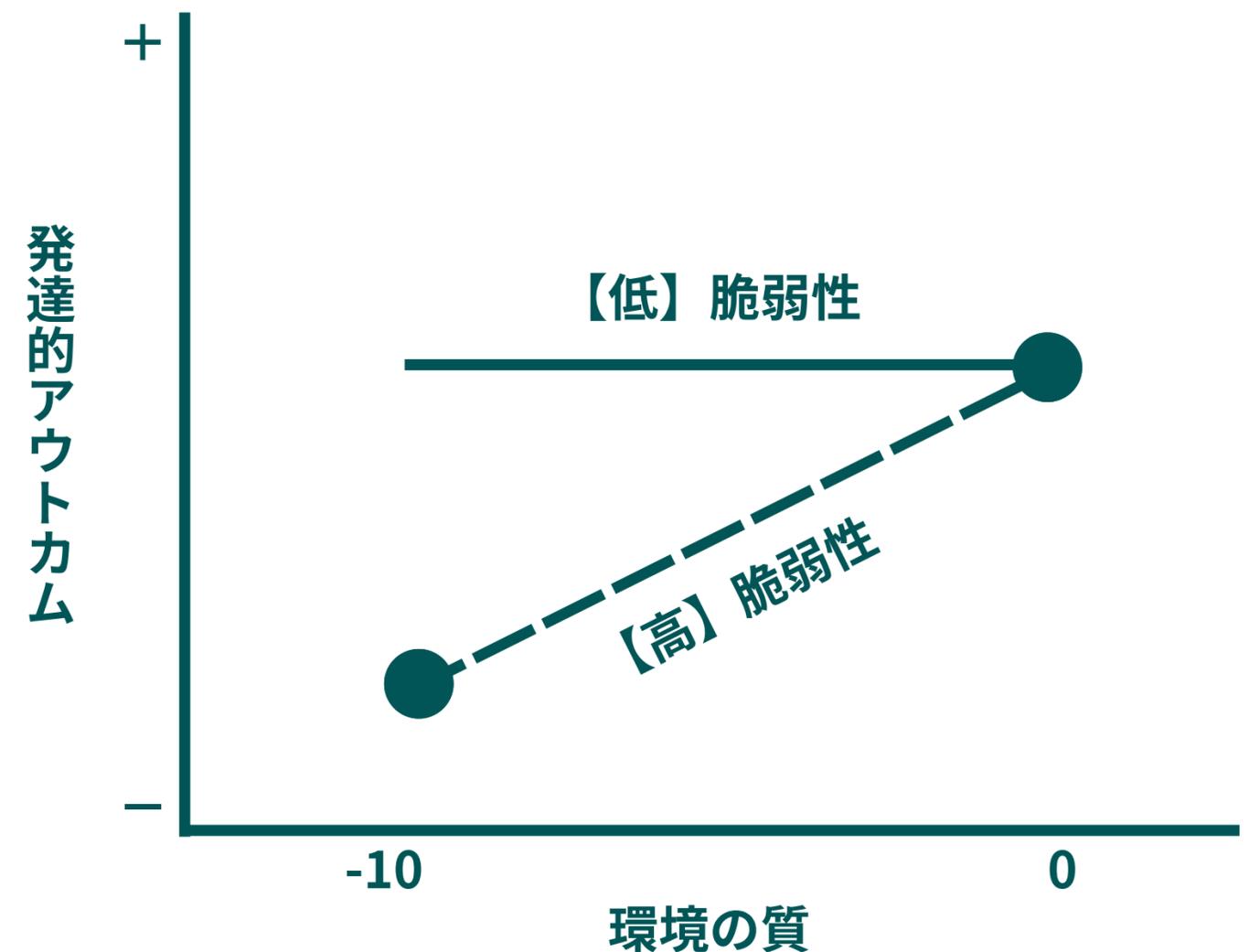
素因（脆弱性因子）をもつ個人は逆境的な環境下で精神病理を高める

- 素因（脆弱性因子）をもつ個人は、その遺伝的・気質的な特性のために、逆境的な環境に対する脆弱性が高く、高い精神病理を示しやすい
- ここでの素因（脆弱性因子）とは？

例 「リスク」遺伝子型（5-HTTLPR、DRD4、DRD2、COMTなど）
気質（負の情動性、「難しい」気質など）

詳細

Monroe, S. M., & Simons, A. D. (1991). Diathesis-stress theories in the context of life stress research: Implications for the depressive disorders. *Psychological Bulletin*, 110, 406–425.



02

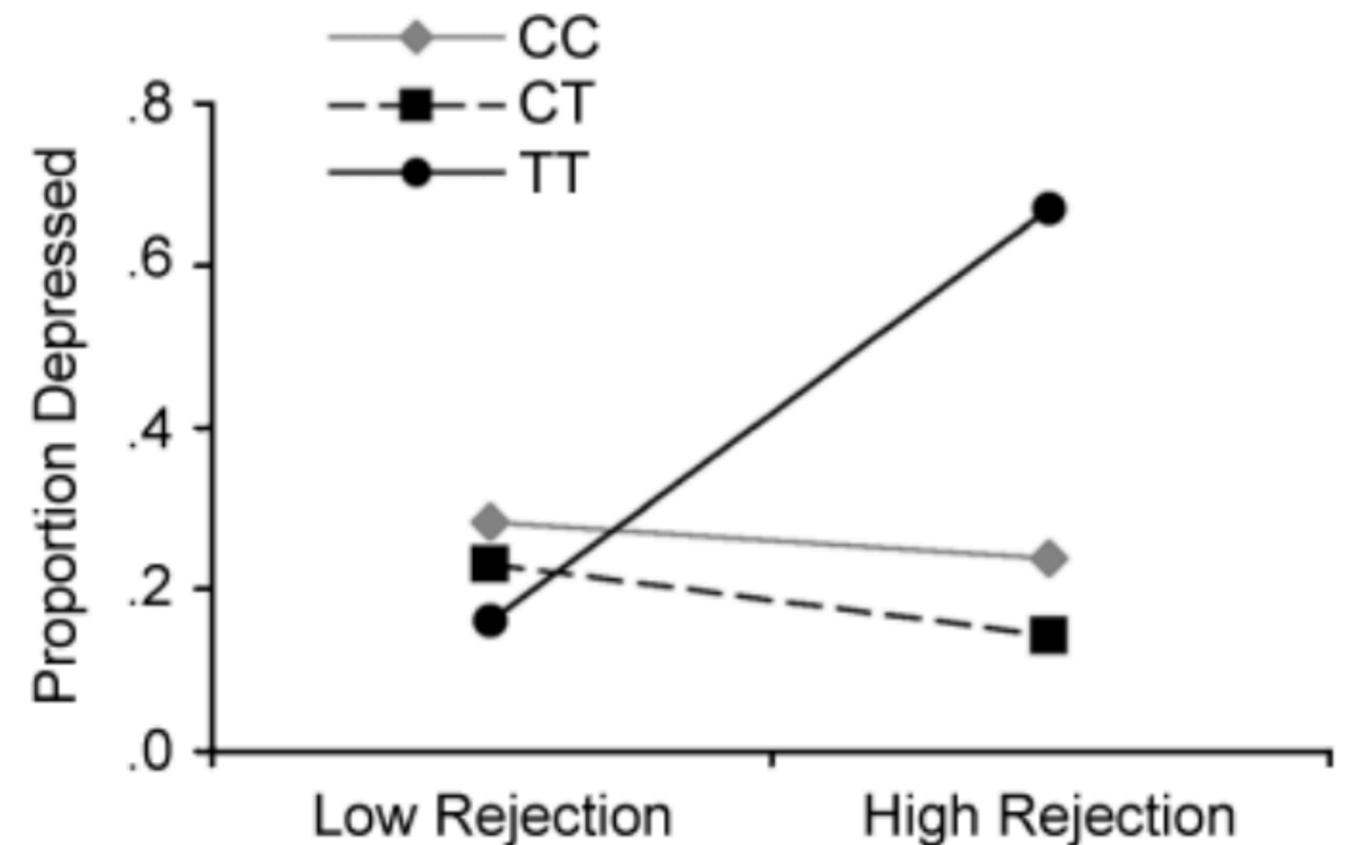
先行研究：精神病理の素因ストレスモデル

ドーパミン関連のリスク遺伝子型（DAT1, TT-allele）をもつ青年は母親からの拒絶体験が多い場合に抑うつ症状が高かった

- ロシア北部アルハンゲリスク州にある少年拘置所に収監された青年期の男子受刑者（平均年齢16.2歳、標準偏差0.8歳）
- ドーパミントランスポーター遺伝子DAT1多型（CC、CT、TT）のうち、TTがリスク遺伝子として知られる

詳細

Haefel, G. J., Getchell, M., Kopolov, R. A. et al. (2008). Association between polymorphisms in the dopamine transporter gene and depression: Evidence for a gene-environment interaction in a sample of juvenile detainees. *Psychological Science*, 19(1), 62-69.



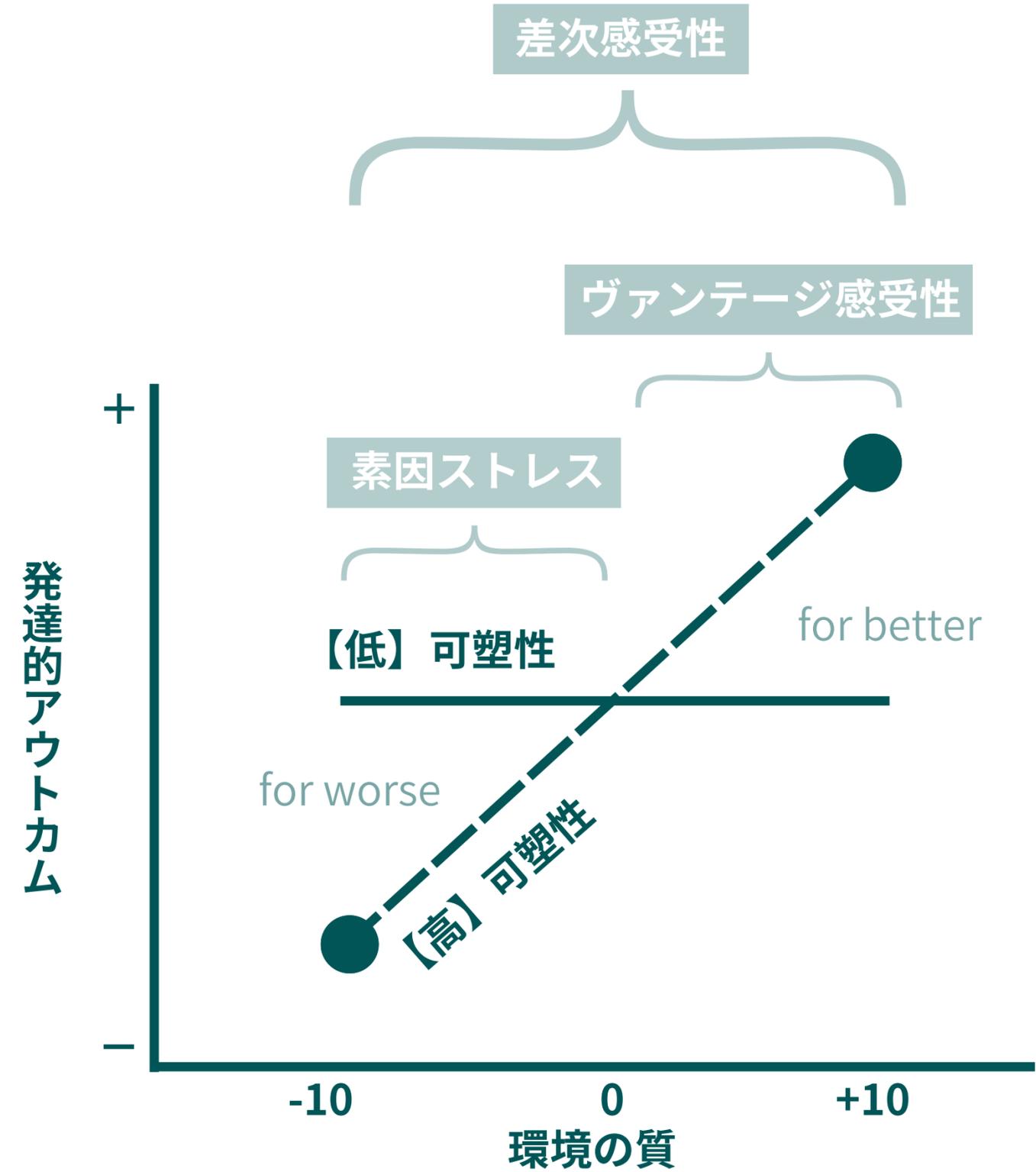
03 差次感受性モデル

再考される素因ストレスモデル

- 環境の質をサポータティブな範囲まで拡大すると、かつて逆境下で脆弱性が高いとみなされていた個人は、サポータティブな環境で恩恵を得やすい個人と同一人物であった
- 「脆弱性」因子（リスク因子）は「可塑性」（被影響性・感受性）因子であった
- 脆弱性の高い個人→可塑性の高い個人

詳細

Belsky, J., & Pluess, M. (2009). Beyond Diathesis Stress: Differential Susceptibility to Environmental Influences. *Psychological Bulletin*, 135(6), 885–908.



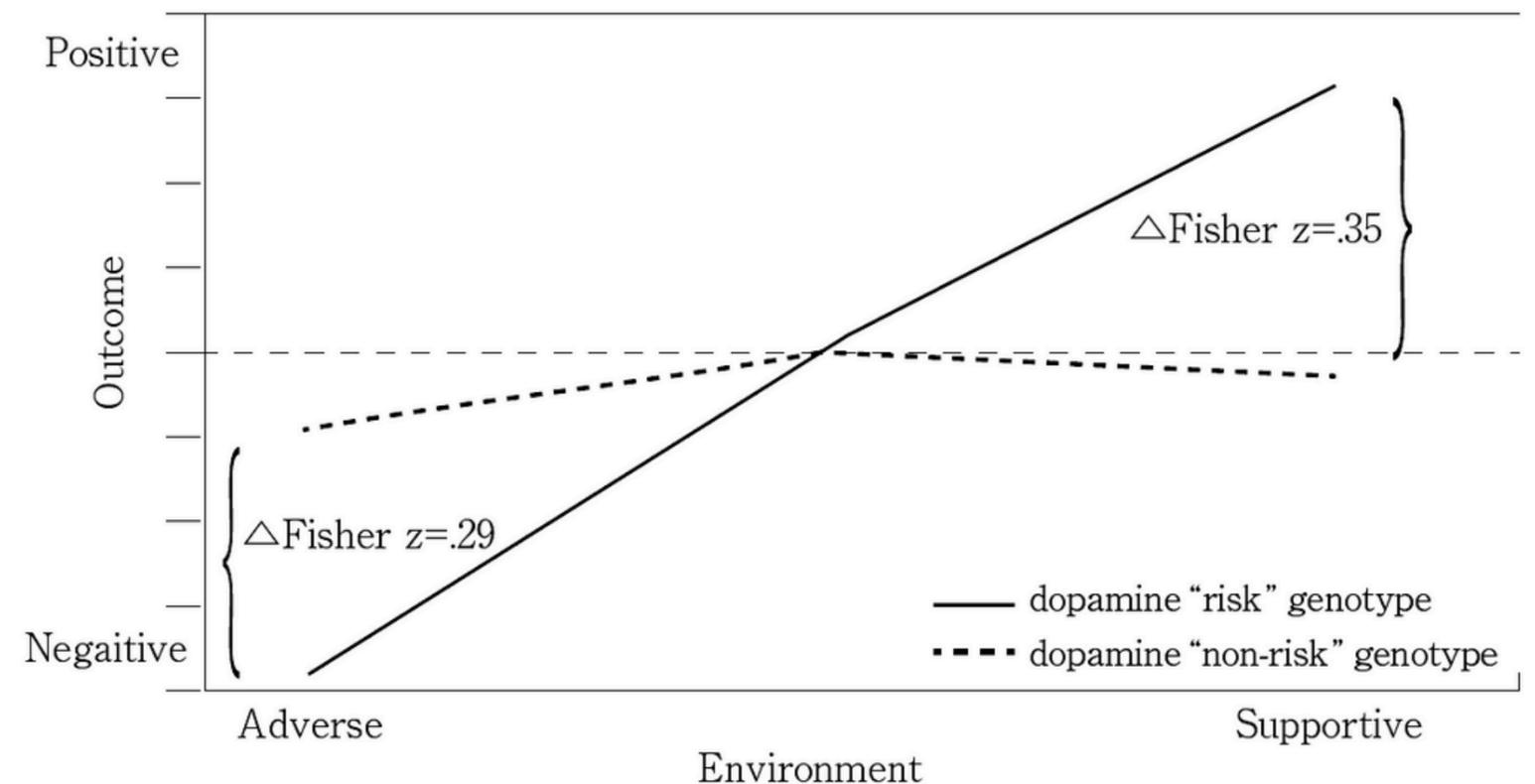
03 先行研究①（メタ分析）：差次感受性モデル

ドーパミン作動系のリスク遺伝子型をもつ子どもは、養育の質から「良くも悪くも」影響を受けやすかった

- 素因ストレスモデルの文脈でリスク遺伝子型とみなされていたドーパミン作動型遺伝子多型をもつ子どもたちは、正負両方の環境に対する感受性が高かった
- リスク遺伝子→可塑性遺伝子

詳細

Bakermans-Kranenburg, M. J., & Marinus H. Van Ijzendoorn. (2011). Differential susceptibility to rearing environment depending on dopamine-related genes: New evidence and a meta-analysis. *Development and Psychopathology*, 8, 9941-9949.



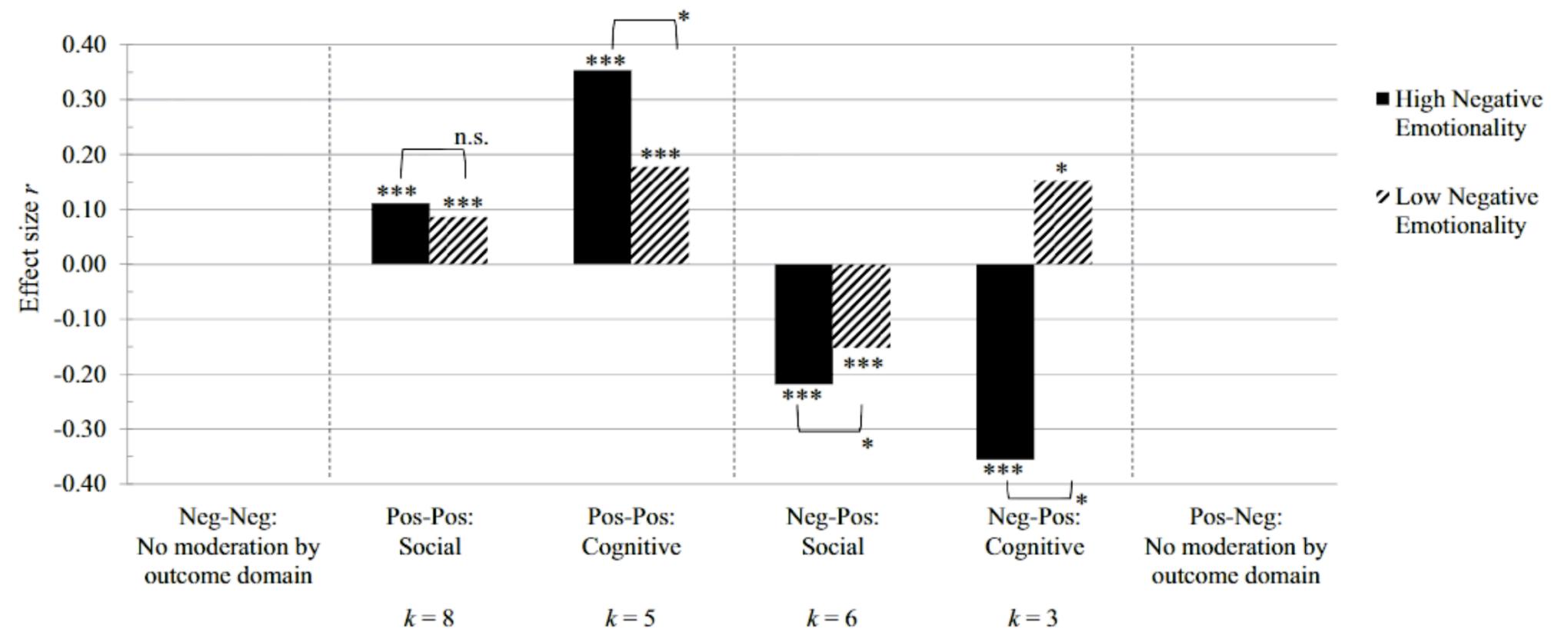
参考

10歳以下の子どもを対象にしたk = 12のメタ分析
ドーパミン作動型の遺伝子としてDRD2 (A1) , DAT (10R) , DRD4 (7R) が含まれた。カッコ内はリスク (可塑性) 遺伝子型

03 先行研究② (メタ分析) : 差次感受性モデル

「負の情動性」が高い子どもにおいても同様の結果が得られている

- 負の情動性が高い子どもたちは、ネガティブ・ポジティブ両方の被養育経験から「良くも悪くも」影響を受けやすかった



詳細

Slagt, M., Dubas, J. S., Deković, M., et al. (2016). Differences in sensitivity to parenting depending on child temperament: A meta-analysis. *Psychological Bulletin*, 142(10), 1068–1110.

参考

Neg-Neg : ネガティブな養育とネガティブな発達アウトカムの関連
Neg-Pos : ネガティブな養育とポジティブな発達アウトカムの関連
Pos-Pos : ポジティブな養育とポジティブな発達アウトカムの関連
Social : 社会的コンピテンス
Cognitive : 認知的コンピテンス

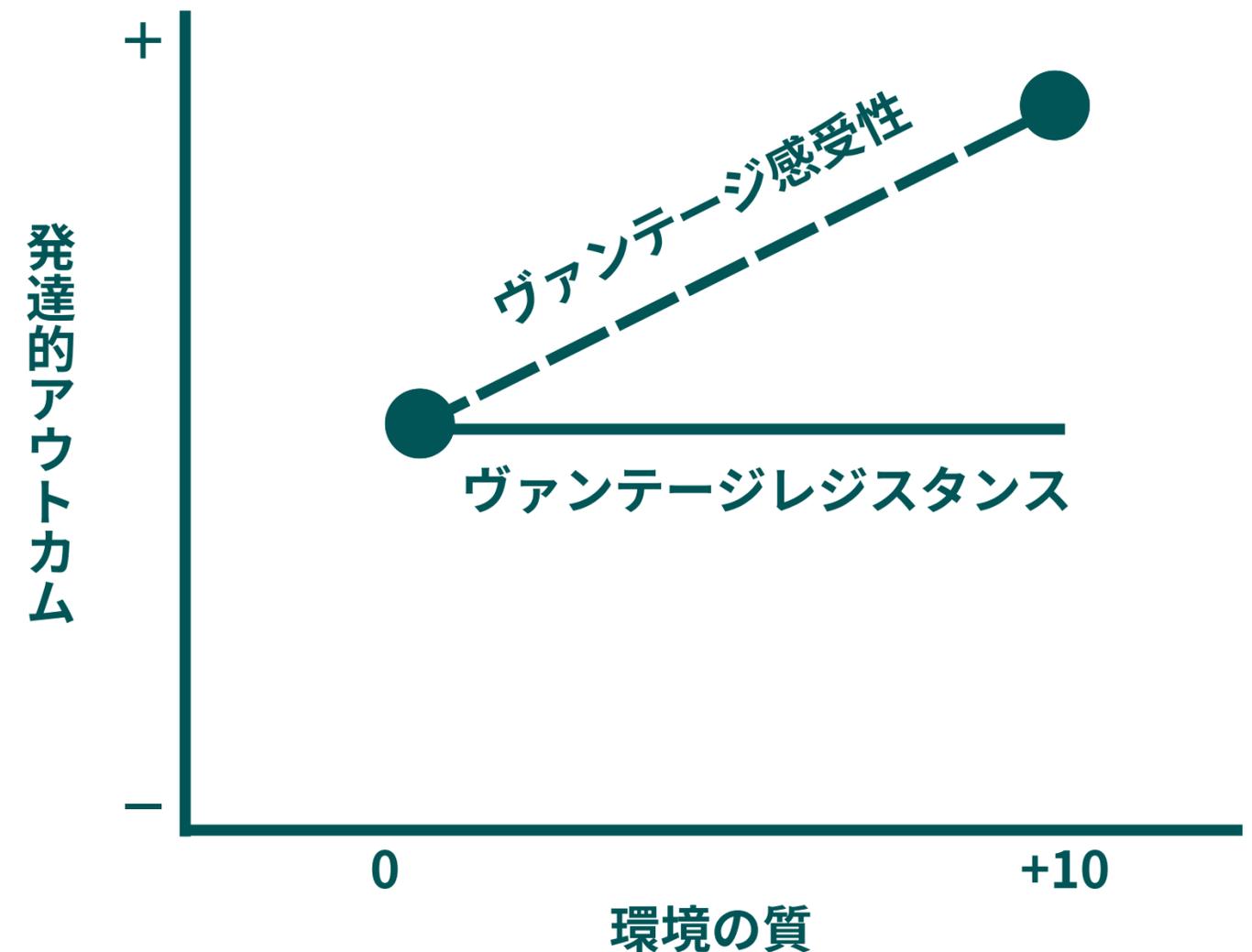
04 ヴァンテージ感受性モデル

可塑性の高い個人はサポータティブな環境下で発達的に利益を得やすい

- ある個人は別の個人よりも、その遺伝的・気質的な特性ゆえに、サポータティブな環境から影響を受けやすい
- 差次感受性モデルの「for better」に焦点を当てた個人×環境相互作用の枠組み
- 素因ストレスモデルは感受性の「ダークサイド」、ヴァンテージ感受性は「ブライトサイド」と対応する

詳細

Pluess, M., & Belsky, J. (2013). Vantage sensitivity: Individual differences in response to positive experiences. *Psychological Bulletin*, 139(4), 901–916.



04

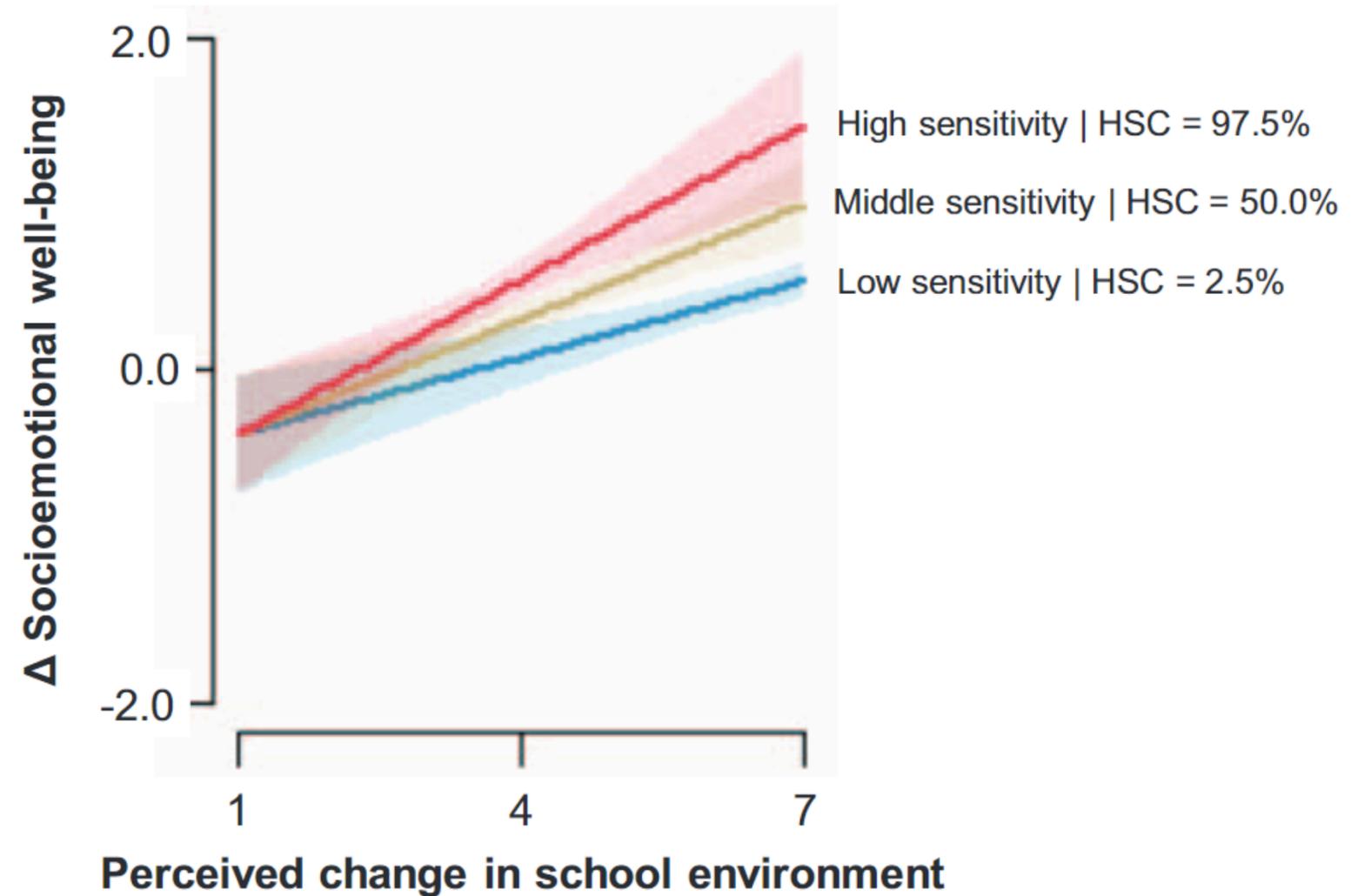
先行研究：ヴァンテージ感受性モデル

感受性の高い子どもはポジティブな学校移行で利益を得やすい

- 感覚処理感受性が高い子どもほど、高校進学後に学校環境が良い方向に変化したと評価した場合に、進学前後でメンタルヘルスが高まった
- 日本の中高生410名を対象に中3（3月）と高1（5月）の2時点で調査
- 学校環境として学級風土や友人関係などの項目を調査

詳細

Limura, S., & Kibe, C. (2020). Highly sensitive adolescent benefits in positive school transitions: Evidence for vantage sensitivity in Japanese high-schoolers. *Developmental Psychology*, 56, 1565–1581.

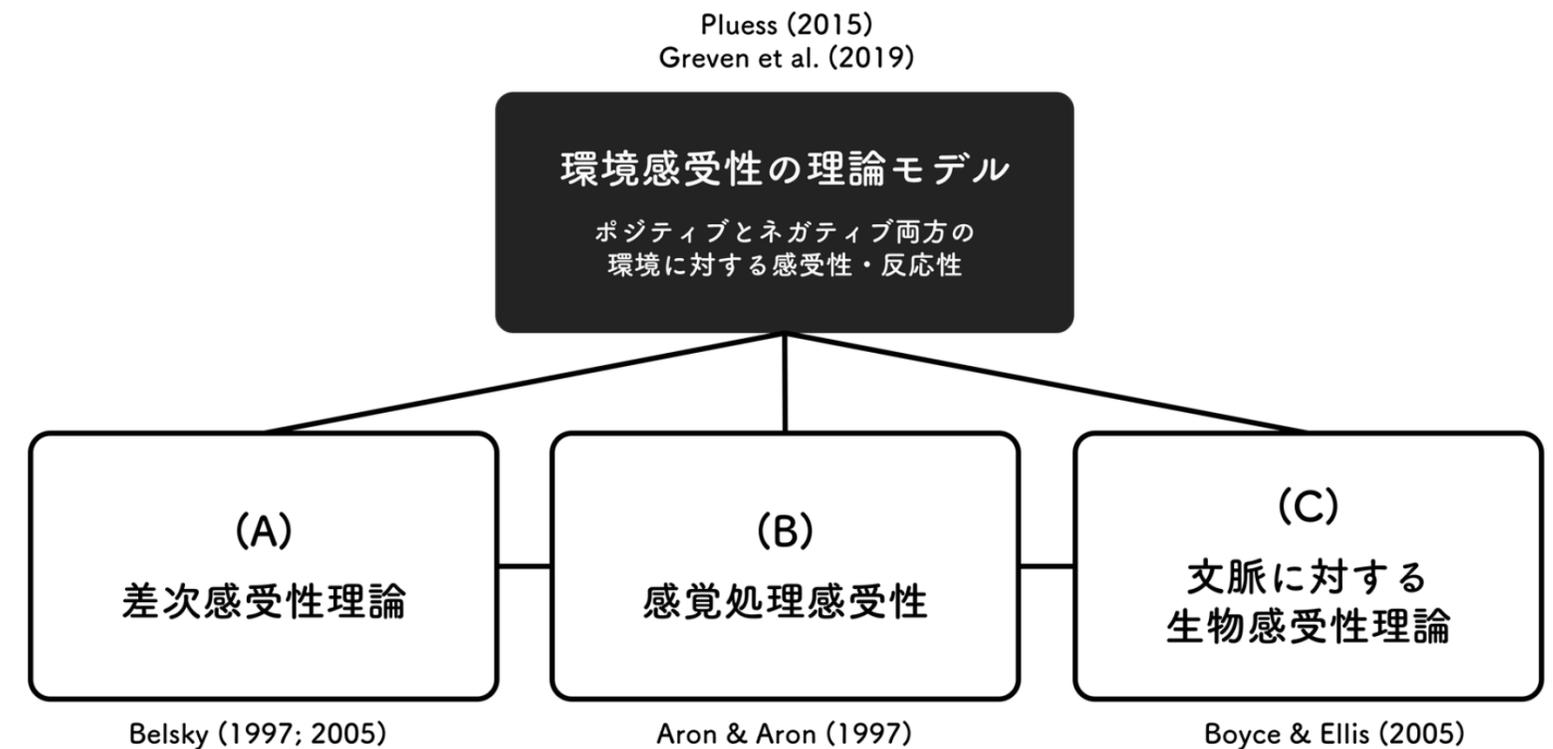


05

環境感受性というメタ概念

正負両方の環境的影響に対する感受性の個人差を説明する

- 環境感受性の個人差は、遺伝的、神経生理的、気質的な因子によって説明される
- こうした感受性の概念や理論は異なる領域でそれぞれ研究されてきたが、共通する考え方も多く、2010年代に「環境感受性理論」という統合的な枠組みが提案される



詳細

Ellis, B. J., Boyce, W. T., Belsky, J., Bakermans-Kranenburg, M. J., & Van Ijzendoorn, M. H. (2011). Differential susceptibility to the environment: An evolutionary-neurodevelopmental theory. *Development and Psychopathology*, 23(1), 7–28.

Pluess, M. (2015). Individual Differences in Environmental Sensitivity. *Child Development Perspectives*, 9(3), 138–143.

06

環境感受性の高さは適応度を低める？

進化論にもとづく評価：環境によっては適応度（fitness）を高める

- 両賭け戦略：環境感受性にばらつきがあることで、子孫が将来過ごす環境の質が未知であっても適応度が著しく下がらない
- 条件付き適応：人生早期の環境をもとに、成長後に過ごすであろう将来の環境の手がかりを得る。逆境的な幼少期である場合、ストレス応答性（感受性・可塑性）を高める発達戦略を採用することで、将来予想される逆境的環境に備えることができる

詳細

Ellis, B. J., Boyce, W. T., Belsky, J., Bakermans-Kranenburg, M. J., & Van Ijzendoorn, M. H. (2011). Differential susceptibility to the environment: An evolutionary-neurodevelopmental theory. *Development and Psychopathology*, 23(1), 7–28.

Ellis, B. J., & Del Giudice, M. (2018). Developmental Adaptation to Stress: An Evolutionary Perspective. *Annual Review of Psychology*, 70(1), 111–139.

参考

両賭け戦略を採用するカブトエビ
カブトエビは雨によってできる水たまりで産卵するが、将来の降雨量は知り得ない。そうした背景から、水に1度濡れると孵化する卵、2度濡れると孵化する卵…のようにばらつかせる遺伝子型をもつ



07

再びの結論

環境感受性の高さそれ自体は「ニュートラル」な特性である

- かつて「悪い心」とされてきた逆境的環境に対する「リスク」因子は、サポータティブな環境に対しても影響を受けやすい「可塑性」因子でもあった
- (悪い心とよい心の定義にもよるが…) 置かれた環境次第で「悪い心」にも「良い心」にもなりうる。ただし、これは環境感受性が低い個人にとっても同じことがいえる。
 - 「良い心」「悪い心」たらしめているのはむしろ「環境」のほう…ってコト？ 
- 適応度（進化論）の視点からも、環境感受性の高さが必ずしも適応度を下げる「悪い心」であるとはいえない

詳細

limura, S. (2024). Chapter14: Differential Susceptibility to Various Environmental Influences: Theory, Research, and Practice. In K. Taku & T. Shackelford (Eds.), *The Routledge International Handbook of Changes in Human Perceptions and Behaviors*. Routledge.